

令和5年度 長野県諏訪清陵高等学校評価表

学校教育目標	～21世紀をたくましく切り拓く人間の育成をめざして～ ① 一人ひとりの個性・能力の一層の伸長 ② 自分で考えることができ、意見を積極的に主張できる人間の育成 ③ 広い視野と「千萬人」の気概を備え、国際社会・地域社会で活躍できるリーダーの育成 ④ SSHの成果をふまえ、先進的な取組みにより、本校の伝統ある理科・数学教育の発展を図る。将来有為な科学技術系人材の育成をめざすとともに、文系分野にすすむ生徒にも、科学・技術を人間・社会との関係まで見通しながら自ら判断し、行動できるための科学的要素を育む。
今年度重点目標	◎生徒が課題発見力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践できる授業の追究 ○生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実 ○相談支援体制の充実と不登校・学校不適応の未然防止に努め、いじめのない学校づくりの推進 ○地域に開かれた学校づくりと社会に開かれた教育課程の実現

教育目標	取組	評価の観点	達成度 (5段階)	意見(本年度の取組・次年度への課題等) ○成果、◆課題、■改善策・向上策
生徒が課題発見力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践できる授業の追究	①授業やテストにおいて、情報分析から課題発見を促すような発問や、答えが一つではない発問を多くし、考察、発表、討論するような機会を多く設ける。	①授業アンケートにおいて、評価項目「2興味関心の深まり」および「3自ら学ぶ力の向上」の好意的評価が得られたか。	4	○授業アンケート「興味関心の深まり」に対し82.7%（昨年度81.6%）が「深まった・大体当てはまる」と回答。また「自ら学ぶ力」に関しては84.7%（昨年度83%）が「深まった・大体当てはまる」と回答。昨年以上の成果が認められた。■今後も、教員間でスキル交換等の情報共有を持つ機会を更に企画したい。
	②学校設定科目「課題研究基礎」、「課題研究」、SSH諸活動および教科の授業全般において、生徒が自ら課題を発見し探究する機会となるような環境を整える。	②「課題研究」において、実験やフィールドワークで得たデータを数学的、理学的視点に基づく考察を行う研究を増やし、ポスター発表・論文などを質的に向上させることができたか。	4	○「課題研究」では、実験や観察、フィールドワークの結果を大学の教員や担当教員のアドバイスを受けて数学的、理学的視点で考察を行うグループが増加した。◆職員研修会を実施したが、SSH事業担当者会を通して授業担当者へ毎週の指導情報の共有が十分ではなかった。■職員研修会を年度内に複数回実施していく。事業担当者会を通して指導法の虚遊を図る。
	③自ら考えて課題を見つけ出し改善していくクラブ活動・学友会活動を実現させるために顧問が機会を捉えて助言や指導をする。	③学友会活動、クラブ活動に自ら積極的に係ることで、生徒が自身の満足度を高めることができたか。	4	○時々が変わっていくコロナ状況を踏まえ、清陵祭その他の学友会行事を運営することが出来た。生徒の自治活動力の向上があった。◆行事運営の実務について従来のやり方を検証し、継承又は改善をしていく必要がある。■生徒役員組織の活性化や通常の委員会活動の充実など、自治活動への効果的な注意喚起を行っていく。
生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実	①社会的・職業的に自立した人間の育成を目指し、合同HR、講演会等により、進路意識の向上を図る。また、進路研究への支援を行い、キャリア教育を推進する。	①講演会等実施後のアンケートにおいて、好意的評価が得られたか。	5	○1年職業観の育成・2年学問についての理解を深めるといった目的の下、講演会が実施できた。対面での講演を増やし、直接意見交換ができる場面を用意した。昨年同様、およそ9割の者が興味関心を示し、同じく9割の生徒が「進路・キャリア意識の向上」について「向上した」と回答。成果が得られた。
	②実力テスト、定期考査、校内模試、校外模試の分析をもとに、毎日の家庭学習、補習、テスト前後の学習の質と量の充実を図る。	②各種テスト後の分析結果に基づき、各生徒の弱点を補うような指導をすることができたか。	4	○学年会や職員会を通じ現状分析に努めた。進路通信や個別の面談を通じ学力向上に努めた。◆成績向上の要因は各生徒によって様々であり、より細かな指導・アドバイスの必要性を感じる。さらなる設問分析を行い指導向上につなげたい。またクラブ活動等との両立に課題あり。
	③学力の3要素を育成するとともに、生徒の進路実現につながる探究的取組の実践を行う。	③学力向上につながるプログラムの中で、より多くの大学、企業等と連携することができたか。	4	○原則対面でSSH連携講座や、研修、講演会のプログラムを実施することができた。中学生も参加可能とする事業を増やすことで中高6年間を見据えた進路実現のためのモチベーションを高めることができた。◆高校生の参加者が偏ってしまった。■多くの生徒が興味関心を持ってプログラムに参加できるように生徒SSH係からの発信を行っていきたい。

相談支援体制の充実と不登校・学校不適応の未然防止に努め、いじめのない学校づくりの推進	①生徒の立場に立って、心身の状態を深く洞察しつつ、成長を支援するための指導を行う。	①生徒の相談に十分に対応することで、不登校生徒数を減少させることができたか。	4	○係内の担当中心に関係部署で連携をとることにより、専門家のカウンセリングにつなげながら個々の生徒に対応することができた。◆支援をしながら状況が改善したり方向性を見いだせた生徒もいるが、多くの生徒は支援が長期間にわたる支援継続が必要となっている。不登校傾向の生徒の数も例年と比較しても減少はしていない。■チームでの支援体制を改めて整え、頻繁に情報共有をしていく。不登校生徒の原因や傾向を分析し、予防の方策を探っていく。
	②社会的マナーの向上や学校生活における全般的なモラルの向上を図る。	②問題行動件数、自転車事故件数を減少させることができたか。	3	○交通安全講話や、定期的に交通安全の通信を発行することで安全意識を啓発図ってきた。問題行動や被害に関して大きなものは発生しなかった。◆報告のあった交通事故の件数は11件(すべて自転車に関わる事故)で昨年度より大幅に増加してしまった。ヘルメットの着用については「強く勧める」方針であったため、常時着用している生徒は半数ほどにとどまった。■交通事故はゼロを目指し、具体的事例を上げながら自分のこととして捉えられるような啓発をしていく。ヘルメットは生徒に販売斡旋をしながらまず準備をすところから徹底させていく。
	③いじめを絶対に許さない校風を維持する。	③いじめ防止のために、機会を捉えた指導をすることで、いじめ件数をゼロとすることができたか。	4	○いじめに関わる訴えはなかった。◆いじめではなくても、その芽となるかのうせいのある、他者を傷つけるような行為の事例はあった。■今後もいじめゼロの学校を作ることは重点目標とし、予防のために、人権に対する感覚や多様性を受け入れる思考を育てる指導を、係としても具体的な形にしていく。職員間でも発見することの重要性を再認識して日常の観察に力を入れる。
	④いじめの早期発見につながる相談体制を十分に機能させることで、いじめの早期解決を図ることができたか。	④いじめの早期発見につながる相談体制を十分に機能させることで、いじめの早期解決を図ることができたか。	5	○いじめに関わるアンケートを実施(年2回)し、日常生活の中で職員に見えない部分の実態の把握に努めた。いじめに関する訴えは、日常でもアンケートを通して見られなかった。トラブルに対しても職員が協力しても適切な対応をすることができた。■担任を窓口とした相談体制、それを受けての係内での対応体制の再確認をし、早期発見、早期対応する意識を維持していく。職員全体で安心して学べる魅力ある学校作りを目指し、お互いが尊敬しあえる雰囲気を作る。
地域に開かれた学校づくりと社会に開かれた教育課程の実現	①教育活動を直接見る機会を設け、学校への理解を深める機会とする。	①公開授業、学校説明会、保護者懇談会に多くの方の参加に参加してもらえたか。また、これらの事業を通し学校への意見要望を吸い上げることができたか。	4	○5/20(土)授業公開:416名来校 7/18(火)~20(木)学校説明会・授業公開:30校から393名来校 10/7(土)課題研究中間発表会:300名来校 12/11(月)~15(金)1,2年保護者懇談会(全クラスで実施) 1/19(金)~21(日)3年生保護者懇談会(希望者、共通テスト自己採点を元に出願指導) 2/3(土)課題研究発表会:166名 ○行事毎に来校者アンケートを実施。管理職+教務係で中学校訪問を行ない清陵への意見を聞くとともに広報活動を行なった。意見については情報共有している。授業・生徒の様子、学習環境については、概ね高評価であるが、清掃不徹底の指摘があった。◆公開授業、学校説明会は制限を大幅に緩和し行なったが、参加者は微増にとどまった。次年度は実施内容、時期等の検証を行ない多くの方に見てもらえるよう工夫したい。
	②広報物を活用し、清陵高校・附属中学校の情報を発信していく。	②ホームページの更新頻度を上げること、各種広報物「清水ヶ丘便り」「学校案内」「SSHだより」の発行で、中学生やその保護者に清陵高校の取組を伝え、志願者数を増やすことができたか。	4	○HPIは契約手続きミスによりデータが消失し一時期閲覧できない状態になったが、新しく作り直し現在は情報提供可能となっている。すっきりし見やすくなったと好評である。また、更新作業が格段に効率化されたことで、速報性の向上、更新頻度のアップが期待できる。◆「学校案内」は、より見やすく、より情報が伝わるよう画面構成に手を加えている。中学生へのアピールとしては紙媒体は重要であると考え継続していくが、将来的には媒体の見直しも必要。■「清水ヶ丘便り」は9月発行の60号をもって印刷物としての発行をやめ、電子媒体での発行に移行する。■メール配信システムを使い、翌週の予定を配信。ちょっとした学校の様子を加えて配信しているが、保護者から好評を得ている。
	③外部機関と連携し教育活動の範囲を広げていく。	③SSH、進路指導、学友会、部活動に加え授業等での外部機関との連携した活動を推進できたか。	3	○清陵祭や部活動など機会をとらえて外部機関と連携した教育活動を行い活動の質的向上を図ることが出来た(学友会係)。キャリア教育等の場面に於いて外部との連携が図られた。今後も継続して取り組んでいきたい。(進路指導係)■今後も無理のない範囲で継続して取り組んでいく(学友会係)。◆教科指導(授業)の面では、外部機関との連携は行えなかった。研究を進めたい。